して，愛知県における教育相談関係事業の将来計画を立案中である。学校教育における児童・生徒をめぐる諸問題は，丁度，産業公害がここ2，3年来顕著な様相を呈してきたと同様な形で，もはやどうにもならない状態に近く，児童，生徒に「精神公害」を与えていると考えられるので，この面での積極的な方策は極めて緊急な課題であろう。

なお又，これに関連して，愛知県の児童・生徒の精神健康研究協議会が発足し，その議長として，具体的な実践研究や，その施策を検討中である。

これらのことはoutsideの仕事であるが，教育—社会というものは絶えず，われわれの本質的な課題の一つであると思われるので，この分野からの新しい研究領域の拡大は多々存在すると思っている。

（1972年11月30日）

課題および現況

水　野　欽　司

1. ここ数年来の課題であるデータの自動分類（クラスター分析）の研究については，今年度も引続き，理論およびアルゴリズムの考究，計算プログラムの作成と試算を行なっている。

その一部は，「相関比基準による系統クラスター化」（名大教育学部紀要—教育心理学科—18巻），「項目分析に関する一試案」（東海心理学会21回大会）にて報告した。しかし，これらはごく限られた問題の検討である。

データの自動分類はただ単に分類のためのものでなく，問題意識に即したものでなければならず，また他の解析モデルとの一体化が計られていなければならない。その意味で，いろいろな既存の解析方法を内に包みこむ形の総合的な分析モデルとして扱う方向で努力している。

なお，これに関連して，名大大型計算機センターのライブラリ拡充のための昭和47年度開発プログラム公募に応じ，「ノンメトリック多次元尺度構成」，「クラスター分析」の2課題について協力している。これらの方法に興味をもつ人々と共同で来年度まで継続する予定である。

2. 調査技術の研究に関連しては，NHK放送世論調査所の47年度研究プロジェクト「調査不能の分析」に統数研の林知己夫氏と共に参加し，最近における調査不能サンプルの漸増傾向の実態分析とその対策について方法論的検討を進めている。また（財）計量計画研究所の将来交通量推計モデルに関する二・三の研究に協力研究者として，住民調査および分析を実施中である。

3. 早いもので当教室に着任以来3年になる。当初から電算機指向的な側面を強く見せて来たためか，近頃ではすっかり〝計算屋〟のイメージを内外に与えてしまったようである。〝計算屋〟であることを誇りにしている自分だから，それはそれでよいのであるが，それ故にまた残念なことも多い。

行動科学分野における広い意味のデータ処理には電算機が有効であることはいうまでもない。それについては解説，「電子計算機の応用—人文・社会系におけるデータ解析—」（名大大型計算機センターニュース，11号）で触れた。しかし，最近では，自分で計算できないどころか分析方法の内容理解もせずにコンピュータに頼る人間が全国的に増加したことも事実である。〝コンピュータ公害〟ともいえるこのような風潮の助長に自分も一役買っていることを反省している。

47年9月急逝された故続教授は生前，現象に対する細かい配慮，考察なしに，数量主義に走る若い研究者に多い傾向をいつも戒めておられた。それよりも悪いといえるこの「公害追放」にも今後は積極的に取組むつもりである。

（1972年11月30日）

内　田　良　男

昨年度は下記事項について報告した。

1. 統計数理について
2. 教育統計について
3. 県民性の研究
4. 交通問題に関する研究

その後の概況についてはつぎの通りである。

1. 特に著しい成果はなくなお継続する。
2. 名古屋市教員異動実態調査はその集計を終り，現